

Q&A

胃の陥凹性病変の 1 例

【問 題】

症例：40 代，男性。

主訴：検診異常。

既往歴：なし。常用薬なし。

家族歴：特記すべきことなし。

生活歴：飲酒歴：機会飲酒。喫煙歴なし。アレルギー歴なし。

現病歴：生来健康で自覚症状はなし。検診目的の上部消化管造影検査にて異常を指摘された。前医の上部消化管内視鏡検査（EGD）では、胃体下部大弯に陥凹病変を認め、生検病理は Group 1、軽度の炎症をともなう胃粘膜との結果であった。精査加療目的に当科を紹介受診した。

血液検査所見：WBC 9720/ μ L (Neut 58.3%，

Lymp 33.8%，Mono 4.5%，Eosino 3.0%，Baso 0.4%)，RBC 504 万/ μ L，Hb 15.8g/dL，Ht 45.5%，Plt 27.6 万/ μ L，CRP 0.05mg/dL，血沈 60 分値 1mm，TP 7.2g/dL，Alb 4.7g/dL，T-Bil 0.5mg/dL，AST 18U/L，ALT 21U/L，LDH 157U/L，ALP 223U/L， γ -GTP 23U/L，ChE 352U/L，Amy 89U/L，UN 11.4mg/dL，Cre 0.85mg/dL，Na 142mmol/L，K 4.0mmol/L，Cl 106mmol/L。

画像所見：腹部骨盤部単純 CT：右腎盂結石のみ。EGD (Figure 1)：白色光，NBI 併用拡大観察。

上記検査結果および EGD 生検病理結果により、確定診断に至った。

考えられる診断、鑑別診断は何か？

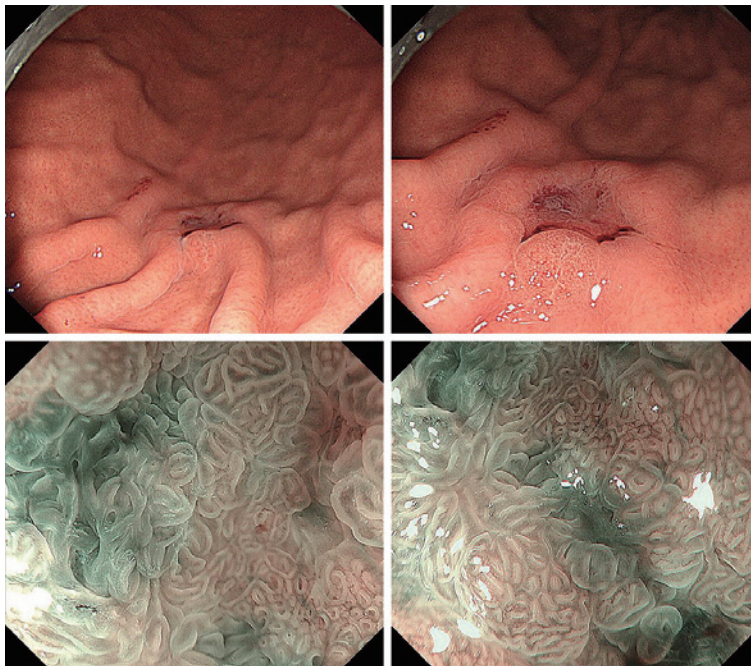


Figure 1. EGD 画像：白色光観察（上段）と NBI 併用拡大観察（下段）。